

平成 22 年 5 月 31 日現在

研究種目：若手研究（B）  
研究期間： 2007～2010  
課題番号： 19700514  
研究課題名（和文） グローバル化するバスケットボール界のスポーツ労働移住

研究課題名（英文） Sports Labor Migration of Global Basketball

研究代表者

千葉 直樹（CHIBA NAOKI）

北翔大学短期大学部・准教授

研究者番号： 20389662

研究分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：

#### 1. 研究計画の概要

この調査では、NBA、ユーロ・リーグ（ヨーロッパの国境を越えたリーグ）、NBL（オーストラリアのプロバスケットリーグ）、日本のトップリーグ（JBLとbjリーグ）に焦点をあて、過去10年間にわたる一流選手の海外移籍の傾向を調べた。さらに、本研究では、海外のプロ・バスケットボール・リーグのコミッショナー・ジェネラル・マネージャー・選手に聞き取り調査を行い、リーグの運営形態（フランチャイズ制、テレビ放映権などによる収益の分配方法、各チームの財務状況）、アメリカ人選手の移住動機、国家間のバスケットボール文化の違いについて分析を行い、国境を越えたプロバスケットボールの特徴を明らかにする。

本研究の目的は、1) バスケットボール界におけるグローバル化の影響を明らかにすること、2) プロバスケットボール選手の海外移籍の傾向を世界システム論に基づき説明すること、3) NBA、ユーロ・リーグ、NBLという国境を越えたプロ・バスケットボール・リーグに共通する特徴を明らかにするこ

とである。

#### 2. 研究の進捗状況

本調査でこれまでに明らかになった内容を、研究方法ごとに以下に示す。

(1) JBLとbjリーグにおける外国出身選手の比率を調べた。JBLに所属した外国出身選手の比率は1997-8年シーズンの24%（38名）から、2007-8年シーズンの17%（20名）に減少した。一方で、bjリーグでは、2005-6年シーズンの32%（22名）から2007-8年シーズンの39%（47名）へと外国人選手の比率と数が増加していた。こうした違いは、両リーグの外国人枠の違いと考え方を反映していた。

(2) 2008年2月にアメリカを訪問し、NBAコミッショナーのデビッド・スターンにインタビュー調査を行った。スターンは、1984年にNBAのコミッショナーに就任以降、23チーム中17チームが赤字経営に陥っていた状態から、2008年に30チーム中20チームが黒字経営になるところまで経営を向上させた。各チームの経営が改善された理由は、①全てのアリーナの新築・改築による収入の増加、

②テレビ放映権料の増加、③スポーツ・マーケティングによるスポンサー収入の増加という三つの要因から説明された。

(3)2000年以降のNBA選手に占める外国人選手の比率を分析した。NBA各チームに登録された外国出身選手数は、2000-1年シーズンの58名(11.5%)から2007-8年シーズンの109名(20.6%)へと倍増した。この結果は、1980年代に数名の外国出身者しかいなかったことを考慮すると、飛躍的な増加といえる。特に、2000年以降、ヨーロッパと汎アメリカ地域から、NBA選手が倍増していることが明らかになった。以上の結果から、NBA選手はグローバル化の影響を受けて多国籍化してきたことが明らかになった。

(4)2009年3月にスペインを訪問し、ユーロリーグのCEO、ジョージ・ベルトメフ氏にインタビュー調査を行い、3名のアメリカ人選手に聞き取りを行った。

(5)2010年2月にオーストラリアを訪問し、NBLのジェネラル・マネージャー、チャック・ハーミソン氏にインタビュー調査を行い、2名のアメリカ人選手に聞き取りを行った。

(6)JBLのチームに所属する3名のアメリカ人選手と面談し、移籍動機に関するインタビュー調査を行った。今後、JBLとbjリーグのアメリカ人選手へのインタビュー調査を継続する予定である。

### 3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

JBLとbjリーグに所属するアメリカ人選手とのインタビュー調査は、予定していた対象者から取材をすることができなかった。いくつかのチームから、シーズン終盤の大事な時期ということと外国人選手への取材は難しいという理由で、インタビュー依頼を断られた。また、勤務校の授業・公務など

の影響で、実質的に研究に集中できる期間が年間4箇月程度に限定され、予定していた研究を全て終わられていない。

### 4. 今後の研究の推進方策

今年度は、8月から2月までJBLとbjリーグに所属するアメリカ人選手にインタビュー調査を行う予定である。昨年度までのインタビュー調査の結果をまとめ、11月に北米スポーツ社会学会で研究成果を発表する予定である。さらに、冬季休みの期間にインタビュー調査のテープ起こしと論文執筆を行う予定である。これまでの論文を完成した後で、国際雑誌と国内の研究雑誌に論文を投稿する予定である。

### 5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計 1 件)

千葉直樹「越境するスポーツ—1980年代以降のNBAのグローバル戦略」体育の科学、査読無、Vol. 60, No. 5、2010年、299-302頁

[学会発表] (計 2 件)

- Chiba, Naoki, The Globalization of Basketball and Reorganization of Elite Basketball in Japan, ISSA(国際スポーツ社会学会), 2008 5th World Congress, 2008年7月、in Kyoto University.
- 千葉直樹、1980年代以降のNBAのグローバル戦略と経営、日本スポーツ社会学会第18回大会、2009年3月、関西大学